

緑内障診断の ゴールドスタンダードはこれだ!

 パート
2

2012年9月29日(土) 7:30~8:20

第3会場(ANAクラウンプラザホテル金沢 3F鳳の間(西))


座長 杉山 和久 先生 (金沢大学大学院教授/金沢大学附属病院 副病院長)

ご略歴	1984年	金沢大学医学部卒業、岐阜大学眼科入局
	1990-92年	米国オレゴン医科大学眼科およびDevers Eye Institute留学
	1996年	岐阜大学眼科 講師
	2000年	岐阜大学眼科 助教授
	2002年	金沢大学大学院 教授
	2010-12年	金沢大学附属病院 副病院長

昨年の日本臨床眼科学会のイブニングセミナーで好評であった「緑内障診断のゴールドスタンダード」の第2弾を企画しました。近年、OCTの発展と普及によって、視神経乳頭や網膜の詳細な構造が解析できるようになり、緑内障の診断に新たな情報を付加しました。しかし、乳頭形状を視覚的に観察し、陥凹の拡大やリムの消失、乳頭出血の有無を確認するには、ステレオ眼底撮影は欠かせません。また、視野検査は、患者の視機能を直接評価する目的から、これまでと同様に不可欠であるといえます。OCTが如何に発達しようと、緑内障の診断、病態の把握には、ステレオ眼底と視野がゴールドスタンダードであることは、従来と変わりありません。

本セミナーでは、谷戸正樹先生には、緑内障の診断や病状の把握におけるステレオ眼底写真の意義と、ステレオ写真による定量的解析などの今後の可能性についてご講演していただきます。また、松本長太先生には「早期発見」の視点から視野計における日本人正常眼データベースの意義と眼底像視野計の可能性についてお話頂きます。

緑内障診療としては歴史の古い「ステレオ眼底」と「視野検査」ですが、「古いけど新しい! 緑内障診断のゴールドスタンダード」といべき検査法です。どうぞご期待ください。

演題 1

ステレオ眼底写真3次元解析システムVK-2 WXの使用経験


演者 谷戸 正樹 先生 (島根大学医学部眼科 講師)

ご略歴	1996年	島根医科大学医学部 卒業
	1996年	島根医科大学医学部眼科 助手
	1999年	京都大学大学院医学研究科 特別研究学生
	2003年	日本学術振興会特別研究員・京都大学ウイルス研究所 研究員
	2004年	日本学術振興会特別研究員・オクラホマ大学ヘルスサイエンスセンター眼科 研究員
	2006年	島根大学医学部眼科 講師

演題 2

視野と眼底の対応を正確に評価するために


演者 松本 長太 先生 (近畿大学医学部眼科 教授)

ご略歴	1983年	近畿大学医学部卒業
	1989年	近畿大学大学院医学研究科修了 多根記念眼科病院
	1990年	近畿大学医学部眼科 講師
	1998年	The Johns Hopkins Hospital, The Wilmer Eye Institute 客員講師
	1999年	近畿大学医学部眼科 助教授
	2007年	近畿大学医学部眼科 准教授
	2008年	近畿大学医学部眼科 教授

CDSketch

 眼底画像視神経乳頭パラメータ算出アプリ
 「CDSketch」の無償ダウンロードを開始